

図書館システムを完成させる
ための長期計画について

— 答 申 —

昭和56年2月28日

豊中市立図書館協議会

昭和56年2月28日

豊中市立岡町図書館

館長事務取扱 三星 恵宥殿

豊中市立図書館協議会

委員長 楠原 中住

図書館システムを完成

させるための長期計画について

本協議会は、昭和54年12月21日、市立岡町図書館長より諮問を受けた標記の件について、慎重に審議をすすめてきましたが、このたび結論を得ましたので別紙のとおり答申いたします。

豊中市立図書館協議会名簿

委員長 楠原中住 社会教育委員

委員 (五十音順)

安達みのり 豊中こども文庫連絡会

石塚栄二 帝塚山大学教授

今井直男 豊中市中学校長会

栢俊子 豊中市読書団体連絡協議会

杉本弘志 豊中市議会議員

永田猛 学識経験者

藤本五郎 豊中市小学校長会

柳沢真次郎 公民館運営審議会

若宮愛子 豊中市婦人団体連絡協議会

(昭和55年7月1日 現在)

目 次

I	基本的な考え方	1
II	市立図書館の歴史的経過	3
III	市立図書館の現状と問題点	5
1	現 状	5
2	問題点	7
IV	豊中市における図書館システム	9
1	計画の目標	9
①	貸出しを中心としたサービス	9
②	児童に対するサービス	9
③	家庭・地域文庫について	10
④	青少年に対するサービス	10
⑤	お年寄りに対するサービス	10
⑥	障害者に対するサービス	10
⑦	市民の情報センターとして	10
⑧	郷土のコミュニティづくりの一環として	11
⑨	読書推進活動について	11
2	計画の内容	11
(1)	サービスポイントの構成	11
(2)	施設配置計画の規準および規模	13
(3)	各施設、設備の整備	14
3	計画の推進	14
(1)	計画の期間	14
(2)	実現の方策	15
4	留意事項	15
(1)	組織、機構の整備	15
(2)	図書館間の調整機能	16
(3)	資料の充実	17
(4)	職員の適正配置	17
(5)	学校図書館、その他の機関、施設との連携	17

添 付 資 料

I 基本的な考え方

図書館は、社会教育法に基き、図書館法の規定にしたがって、市民の知る権利、学ぶ権利、生涯教育の機会を保障する機関である。

図書館が真に市民のものになるには、

1. 自由に、気軽に利用できる図書館が身近にあること。
2. 市民の求める新鮮で魅力ある資料を豊富に備えられていること。
3. 地域におけるさまざまな市民運動と結びつけながら学習活動、文化活動を促進すること。
4. 読書や図書館利用に対する市民の関心を高め浸透させる活動を展開すること。
5. 専門の職員がいて、的確に市民の要望に応じていくこと。

この五つの条件がみたされ、かつ図書館活動全体が、一つの有機的なつながりをもって発展する組織体でなければならない。

豊中市が昭和54年3月に策定した「豊中市総合計画」においても、社会教育の分野で、「社会教育はコミュニティや自覚的市民の形成という重要な役割を持ち、市民の学ぶ要求に合わせて、より一層学習の機会を提供する必要がある。」と述べている。さらに図書館について「市民が身近に図書およびその他の資料を利用できるように動く図書館・分室・図書室の拡充、家庭文庫・地域文庫等への助成、地域図書館の北部地域への新設、小図書館設置の検討を行ない、各機能分担と相互補完をはかり図書館活動を市民と結びつけた多様なものとして発展させる。」としている。

したがって、この計画を実現させるためには、長期的展望にたった豊中市の図書館のあり方、その具体化の方策が必要である。

情報化社会の波にさらされている市民生活において、民主主義の基本をなす考える市民、自主的な判断ができる市民の形成は重要な課題である。こうした

課題の解決に対応できる図書館であるためには、さきにのべた市民のものとしての図書館を市民とともに実現していかなければならない。

この計画をできるだけすみやかに達成するためには、行政当局の積極的な取り組みと、市民の生涯学習への意欲の高まりが期待される。

2. 生涯学習の推進と生涯学習の推進

2.1 生涯学習の推進と生涯学習の推進

生涯学習の推進と生涯学習の推進は、市民の生涯学習の推進と生涯学習の推進を推進するものである。生涯学習の推進と生涯学習の推進は、市民の生涯学習の推進と生涯学習の推進を推進するものである。

2.2 生涯学習の推進

生涯学習の推進と生涯学習の推進は、市民の生涯学習の推進と生涯学習の推進を推進するものである。生涯学習の推進と生涯学習の推進は、市民の生涯学習の推進と生涯学習の推進を推進するものである。

2.3 生涯学習の推進と生涯学習の推進

生涯学習の推進と生涯学習の推進は、市民の生涯学習の推進と生涯学習の推進を推進するものである。生涯学習の推進と生涯学習の推進は、市民の生涯学習の推進と生涯学習の推進を推進するものである。

生涯学習の推進と生涯学習の推進は、市民の生涯学習の推進と生涯学習の推進を推進するものである。生涯学習の推進と生涯学習の推進は、市民の生涯学習の推進と生涯学習の推進を推進するものである。

生涯学習の推進と生涯学習の推進は、市民の生涯学習の推進と生涯学習の推進を推進するものである。生涯学習の推進と生涯学習の推進は、市民の生涯学習の推進と生涯学習の推進を推進するものである。

生涯学習の推進と生涯学習の推進は、市民の生涯学習の推進と生涯学習の推進を推進するものである。生涯学習の推進と生涯学習の推進は、市民の生涯学習の推進と生涯学習の推進を推進するものである。

生涯学習の推進と生涯学習の推進は、市民の生涯学習の推進と生涯学習の推進を推進するものである。生涯学習の推進と生涯学習の推進は、市民の生涯学習の推進と生涯学習の推進を推進するものである。

生涯学習の推進と生涯学習の推進は、市民の生涯学習の推進と生涯学習の推進を推進するものである。生涯学習の推進と生涯学習の推進は、市民の生涯学習の推進と生涯学習の推進を推進するものである。

Ⅱ 豊中市立図書館の歴史的経過

豊中市立図書館は、昭和20年3月に市役所内の一室に図書室を開室したのがその始まりである。当初その活動は、もっぱら室内での閲覧だけに限られていた。その後、昭和22年10月に桜塚元町3丁目にあった地元の青年会館を使用して独立開館し、当時としては先進的な開架閲覧方式を採用し利用に供した。昭和24年4月から個人館外貸出を開始し、昭和25年5月には、市立図書館としては全国で初めて自動車による「動く図書館」を発車させた。同年7月、図書館法に基づく図書館条例・図書館規則を制定し、同年9月、図書館協議会が発足した。

昭和29年6月、レコードコンサートを開始（昭和53年4月まで続行）し、同年10月には外書架式で約600冊を搭載できる図書館車を新製し、「動く図書館」の活動を充実させた。

その後、青年会館が老朽化し、利用者・蔵書等の増加に堪えられなくなったため、昭和33年10月に、現在岡町図書館設置の場所に移転した。昭和34年7月には、小・中学生を対象に「子ども室」を開室し、翌35年1月から館外貸出も開始した。同年12月「動く図書館利用者の会」が発足し、のち、図書費の増額・図書館車の増車等に大きな支援をうけた。

昭和36年10月、図書館車が1台増車され、名称も「とよ1」・「とよ2」と命名された。同年11月には、勤労青少年へのサービスとして、市内の企業・団体・施設等に配本する貸出文庫を開始した。昭和40年8月、子ども室でも団地集会所・子ども会等を対象として団体貸出を開始した。昭和43年8月、蛍池小学校の図書室改修にともないその期間中代替の図書室が求められた。そのため蛍池公民館内の図書室へ図書館から図書を配本し、校区児童だけでなく地域の市民も利用できるように「蛍池分室」を開設した。その後、昭和47年8月、七福会館に「七福子ども図書室」（昭和50年4月閉室）、昭和48年12月、市立労働会館内に「労働会館図書室」（昭和50年7月閉室）を開設しまた、昭和49年8月、小曾根センター内に、昭和50年5月、柴原会館内に図書室を開設していった。

昭和44年2月、新館建設第1期工事に着工し、10月に竣工した。これにともなって、「子ども室」は「小中学生室」と改称し、貸出室にあった参考図書コーナーを「参考室」として独立させた。昭和45年9月には、貸出文庫用の配本車が増車された。昭和47年9月新館建設第2期工事に着手し、昭和48年7月竣工した。この時、郷土資料室や電動密集書架等を設け、また貸出文庫と団体貸出を一本化し、「団体貸出室」を独立させた。同時に障害者サービスとして対面朗読を開始し(同50年9月、点字図書コーナー開設)、貸出図書の予約制度も本格的に開始した。

昭和50年7月、南部地域に市民待望の庄内図書館が竣工開館した。これは、過去10年におよぶ市民による図書館増設の請願運動の成果であった。庄内図書館開館にともない、従来の豊中市立図書館は、岡町図書館と改称した。

昭和53年4月には、昭和47年6月結成以来活発な活動をしてきた「千里に図書館を作る会」等の市民による請願運動がみのり、新たに千里図書館が開館し、これにより市立図書館は、岡町・庄内・千里の3館となり、現在にいらっている。

Ⅲ 市立図書館の現状と問題点

1. 現 状

豊中市における図書館サービスは、岡町図書館を中心的図書館として位置づけ、地域図書館として、庄内図書館、千里図書館を配し、蛍池公民館内に蛍池分室、柴原会館・小曾根センターにそれぞれ図書室を設け、その空白地域を動く図書館の巡回でおぎなっている。

昭和54年度末の蔵書数は、岡町図書館198,920冊、庄内図書館50,461冊、千里図書館42,597冊で、合計291,978冊となり、これは市民100人当たり、75冊となる。

また年間受入冊数については、岡町図書館20,028冊、庄内図書館7,773冊、千里図書館12,023冊で、合計39,824冊、市民100人当たり、10冊になっている。

(以下、統計数値は全て昭和54年度末)

当市は市民の図書館利用の高まりとともに職員の増員が行われてきた。特に庄内図書館、千里図書館の新設開館にともなって増員され、現在は、53名(内、有資格者47名)で市民サービス向上につとめている。年間貸出冊数1,505,658冊、貸出人数552,236人を職員1人当たりで示せば28,409冊、10,420人となる。

図書館サービスの指標である貸出冊数、貸出利用人数等は、岡町図書館825,168冊、328,179人、庄内図書館245,644冊、68,337人、千里図書館434,846冊、155,720人となる。合計1,505,658冊で、市民100人当たり、385冊となる。(岡町図書館については、動く図書館、駐車場56カ所、235,224冊、団体貸出37団体、97,938冊、分室・図書室78,033冊、21,745人、解放会館内図書室1,651冊、1,105人を含む)

動く図書館は、図書館活動を市民の中に浸透させるうえで、大きな役割を果たしてきた。

当市には、家庭文庫・地域文庫が22団体あり、これらにたいし、年間88,199冊を貸出ししている。

豊中のこども文庫活動は、本とこどもを結びつける地域に密着した自主活動がなされてきた。

昭和55年度には豊中こども文庫連絡会が、図書館の育成団体となった。

障害者に対するサービスとしては、対面朗読を昭和48年度から開始し、昭和53年度からは本格的にとりくんできた。岡町図書館144回、庄内図書館10回、千里図書館37回 合計191回。

現在では、3館とも拡大読書器を備え、図書の郵送貸出し、在宅者への配本や、声の図書、点字図書の貸出しサービスも行いつつある。

複雑化する社会情勢とともに、市民の図書館に対する情報(資料)要求が多様化している。これに対応するため岡町・庄内・千里各図書館に参考室を設け、各図書館の間で相互貸借を行い市民に密着した情報提供を行っている。

(レファレンス件数 3館合計 4,076件)

昭和35年10月「動く図書館利用者の会」が発足し、この会の重点として読書会活動を取りあげ「とよ読書会」が中心となって今日のごとく多くの読書会ができていった。現在46団体が登録し定期的に活動している。

昭和54年度から「動く図書館利用者の会」は「豊中市立図書館利用者の会」に発展改組した。その会の独自の活動として機関紙「とよの集い」の刊行の他、「文学散歩」、「合同読書会」、「他市との交歓読書会」を継続的に行っている。

市内の新設校に対して一括貸出しをしてきたが、これが発展し現在は、学

校文庫への貸出制度として設けられ、団体貸出しの一環として貸出しを行っている。

庄内図書館では、定期的に庄内地域の各小中学校を訪問し、学校図書館との協力連携を深めるため担当教諭と情報交換し、児童・生徒の図書館利用の促進をはかっている。

2. 問題点

豊中市立図書館の現状から、次のような問題点があげられる。

① 従来、豊中市においては、岡町・庄内・千里の3館が並立し、これを調整する機能が欠けていたことが問題である。

その結果、先行館である岡町図書館に中心館的役割を実質的に負担させてきた。

② 施設面については、現在ある3図書館のうち、岡町図書館は、昭和40年代の設計であるため障害者の利用に対する配慮、ならびに自動車による来館者の増加にともなう駐車場のスペースが不充分になってきている。

3図書館とも蔵書の増加にともない書庫の収容力が限界にたっている。

③ 資料面については、コミュニケーション・メディアの多様化にともなって、図書館に要求される資料が多様になってきた。

図書以外の資料（特に視聴覚資料）の収集が今後必要である。

また所蔵資料を総合的には握し、効率的に活用する手段、機構が十分に整備されていない。

④ 職員数については、現在、分室・図書室が非常勤職員によって運営されているが、このサービスを正規の図書館サービスとして位置づけしていくためには、すみやかに正規の職員によって代替されなければならない。

- ⑤ 貸出サービスについては、3館、1分室、2図書室、動く図書館という既設のサービス拠点だけでは、まだ多くの市民にとって身近で図書館を利用することができない状況にある。また貸出量の増大にともない現行の貸出しシステムはなお再検討の余地がある。
- ⑥ 動く図書館は、特定駐車場における貸出冊数の増加にともない駐車時間が延長されている。こうした駐車場はすみやかに固定施設によって代替される必要が生じてきている。
- 一方いまだ巡回の要望がありながら、これに応えていない地域があることが問題である。また、道路条件の変化で岡町図書館は、動く図書館の基地としての立地条件が必ずしも適切ではなくなっている。
- ⑦ 青少年、特に中・高校生等は自習者が多いが、こうした利用者を読書に親しませるための図書館活動がいまだ十分に開拓されていない。
- ⑧ 家庭・地域文庫については、文庫のかかえる種々様々な問題に適切に対応し、これを援助していくための専任職員の配置、団体貸出室の整備等が充分でない。
- ⑨ 障害者サービスは、現在、障害者が求めるサービス内容や、資料を充分には握しきれていない。施設の改善、器材の整備、職員配置についても検討する必要がある。
- ⑩ 利用者の組織活動については、現在、読書会への資料貸出しのみで、読書会の指導育成や、利用者の会への援助などが充分に行われていない。また、利用者開拓のためのP.Rと利用者相互のコミュニケーションを援助する方策も不十分である。

Ⅳ 豊中市における図書館システム

1. 計画の目標

豊中市においては、貸出登録人員、年間貸出冊数において、図書館の望ましい基準を上まわっているとはいうものの、今なお多くの市民にとっては、図書館は必ずしも身近なものとなっていない。

市民生活のなかにおいて、より身近な図書館となるためには、市民が歩いて行ける範囲に、通勤通学や買物などの生活動線にそって図書館が設置される必要がある。こうした図書館サービス網を早期に実現することが望まれる。

それらの図書館は、市民の多様な要求に応えるため、以下に述べるような要件を充たすものでなければならない。

① 貸出しを中心としたサービス

図書館が市民にとって利用しやすいものであるためには、求める資料が借り出せるようになっていることが必要であり、貸出しを中心とすることによって、市民は図書館の開館時間にとらわれることなく、資料を利用し、読書を楽しむことができる。

② 児童に対するサービス

子どもたちに対して、読書の楽しさを知らせ、本の世界への関心を育くむことは、市立図書館の重要な任務である。

児童に対するサービスは、子どもたちの周囲に魅力のある資料を豊富に備え、これに親しませるための手だてを整備することによって、子どもたちに読書を動機づけることを出発点として、児童の健全な発達を助けていくものでなければならない。

また、子どもの読書に関心をもっている人々に対して、適切な参考資料を提供するなど、子どもの読書についての知識を広めるような活動を積極的に行っていく必要がある。

③ 家庭・地域文庫について

家庭・地域文庫と図書館の児童サービスは、児童の読書を促進するという共通の目標に支えられており、相互に協力しあっていく必要がある。図書館は文庫の独自性と役割を尊重しつつその発展に積極的に取りくんでいかなければならない。

④ 青少年に対するサービス

現在の図書館活動の中で、児童奉仕と成人奉仕の間で盲点になっているのが青少年に対するサービスである。特に中学、高校、大学生にあっては、読書を楽しむよりも受験体制の中に追いつまれている。今後、青少年むき図書
の拡充、学校との連携等で、子どもから成人への転換期にあるこの時期に、各人の情操を高めるためにも青少年サービスを重点的に行わなければならない。

⑤ お年寄りに対するサービス

いまわが国では、年々平均年齢が高くなり、高令化社会が進行しつつあり、それに対応する図書館サービスが求められている。老後の楽しみのひとつとして、落ちついて読書ができるよう施設・資料その他の条件整備をしなければならぬ。また老人ホームや老人福祉センターへの図書の貸出しを行って
いかなければならない。

⑥ 障害者に対するサービス

障害のある人たちが、健常者と同様に図書館が利用できるよう、施設・資料およびサービス体制を整備しなければならぬ。

⑦ 市民の情報センターとして

多様化する情報化社会において、市民は職業上あるいは日常生活上の疑問に対し、各種の情報を切実に必要としている。図書館は市民の情報センターとして、郷土資料・行政資料・その他の参考資料等の充実をはかり、市民の

「知る権利」を保障するようにつとめなければならない。

⑧ 郷土のコミュニティづくりの一環として

図書館が地域の情報提供に責任をもつと同時に、各種の集会や文化的行事を積極的に実施・援助し、市民の集団としての学習の機会を拡大し、情報を交換する場を確立する必要がある。図書館はそうした活動を通じて郷土のコミュニティづくりの一環をになり新しい役割を果たさなければならない。

⑨ 読書推進活動について

図書館は市民に対して、読書の楽しみや本への関心をよびおこし、利用の促進をはかり、潜在利用者の顕在化につとめなければならない。そのために読書会・講演会・映画会・お話し会・資料展示会等の各種集会行事や、文化活動・読書団体の育成等を積極的に行う必要がある。また図書館活動のPRを多角的に展開しなければならない。

2. 計画の内容

豊中市における図書館システムは、全市に配置されたサービスポイント（地域館・分館・分室・動く図書館）の複合体として組織され、有機的に運営されなければならない。

(1) サービスポイントの構成

図書館システムは、市内全域に公平なサービスを提供するため、地域館を中心として、前項に述べた計画の目標にそって総合的に機能が発揮できるものでなければならない。

① 地域館

各地域館は、（仮称）管理運営センターと連携して、当該地域の図書館活動の拠点としての役割を果たすものとする。主な機能は以下のとおりである。

- 1) 当該地域の市民への貸出し
- 2) 当該地域の市民のレファレンス
- 3) 各種団体への貸出し
- 4) 障害者（児）に対する奉仕
- 5) 各種集会事業
- 6) 分館・分室の運営
- 7) 分館・分室のレファレンスへの援助

② 分館

分館は貸出しと児童サービスを中心とした運営を行い、レファレンスは基本的な参考図書は配置するが、相談事務は地域館と連携して解決をはかる。

③ 分室

分館より小規模な施設とし、貸出しを中心としたサービスを行うものとする。

④ 動く図書館

動く図書館の基地は、（仮称）管理運営センター内に置き、地域館・分館・分室のサービス拠点から離れた空白地域を巡回し、貸出しサービスの補完の役目を果たすものとする。

⑤ （仮称）管理運営センター

豊中市における図書館システムを総合的に運営するため、新たに（仮称）管理運営センターを設ける。図書館システムの中核的な役割と、各地域館の調整機能を果たすものであり、組織上各地域館から独立したものとする。主な機能は以下のとおりである。

- 1) 図書館システムの運営
- 2) 事務処理の集中管理
- 3) 資料の集中整理、効果的運用および調整用書庫の管理
- 4) 各種団体への配本および各図書館間の連絡車の運用
- 5) 動く図書館の基地

上記の機能のうち、行政的役割に属する部分は、このセンターから切り離し、教育委員会が直接所管することも考えられる。

(2) 施設配置計画の基準および規模

図書館が市民の身近かに利用されるためには、市民生活の動線上にサービス拠点を設置することが望ましい。市民が日常的に図書館を利用する範囲は、おおむね半径1km以内である。これを考慮のうえ、施設の配置を進め、すべての市民に図書館サービスを保障できるシステムを作りあげねばならない。

施設の規模、職員数等

	地域館	分館	分室
サービス面積(半径)	3.14km ² (1,000m)	2.0km ² (800m)	下記(注)3のとおり
対象人口	40,000人以上	20,000人以上	
収容冊数	70,000冊以上	25,000冊以上	
施設の床面積	1,500m ² 以上	500m ²	
職員数	15人以上	5人以上	
開館日	週6日	週5日以上	

(注) 1. (仮称)管理運営センターの職員数は上記に含まない。

2. サービス面積

算定基礎

「豊中市の都市計画 '78年版」より

$$\begin{aligned} & \text{全市域面積} \times (\text{普通緑地 } 11.2\% + \text{山林 } 2.9\% + \text{水面等 } 5.4\% \\ & + \text{公共施設 } 3.5\% + \text{道路、鉄道 } 3.9\%) = \text{可住地面積} \\ & 36.6\text{km}^2 \times \text{可住地率 } 0.71\% = 26.25\text{km}^2 \end{aligned}$$

3. 分室については、地域館、分館から1km以上離れた地域で、相当数の利用者が見込める所に設置し、専用室を設ける。開室は週2日、3時間程度、職員は固定配置とせず開室日に派遣する。

(3) 各施設、設備の整備

既存の各地域館については、事業の効率化をはかるため、施設設備の改善・整備を行う必要がある。

その主なものとして、

- 1) 団体貸出室の整備、ないし新設
- 2) 障害者も利用できるよう施設の改善
- 3) 駐車場・自転車置場の整備
- 4) 貸出し・返却・予約・督促など日常業務の円滑化・簡素化をはかるため、コンピューターの導入の検討
- 5) 返却ポスト設置の検討

3. 計画の推進

(1) 計画の期間

この計画は、図書館行政の目標水準である。昭和60年以降、可及的速やかに達成すべきである。

昭和54年に策定された「豊中市総合計画」に盛り込まれた図書館に関する部分については、昭和60年度を達成年度とする。

事業計画および達成目標数値

区 分	現状(昭和54年度)	総合計画達成年度(昭和60年度)	計 画 目 標
人 口	390,873 人	450,000 人	—
(仮称)管理運営センター	—	1	1
サービス拠点数	中心館 1 館 地域館 2 館 分室・図書室 3 室 B M 2 台	地域館 4 館 分館・分室 若干 B M 2 台	地域館 4 館 分館 5 館 分室 8 室以上 B M 2 台
登 録 率	16.3 %	21.3 %	31.3 %
年間貸出冊数	1,505,658 冊	2,300,000 冊	—
年間購入冊数	36,988 冊	56,000 冊	—
蔵 書 冊 数	291,978 冊	450,000 冊	—

- (注) 1. 登録率は、新設地域館5%増、分館1館当り2%増とする。
2. 年間貸出冊数は、登録者1人当り24冊とする。(昭和54年度実績)
3. 年間購入冊数は、市民1,000人当り、125冊とする。(望ましい基準案)
4. 蔵書冊数は、人口1人当り、1冊とする。(昭和54年度 0.75冊)

(2) 実現の方策

図書館システムを整備するためには、この計画を裏づける財政措置が必要である。昨今の市の財政状況からみて、国および府の財政的な援助を求めるべきである。

また、計画の早期実現のためには、用地の確保に困難が予想されるので、分館については、配置計画にもとづき新たに開発が予想される地域に、コミュニティセンターを設定し、また分室については、既存の公共施設を活用して、その一部を分館・分室として利用できるよう積極的な働きかけが必要である。

1. 地域館の整備

新たに設置される地域館は、北部に一館新設をする。また既存の地域館はすみやかに整備する。

2. 分館の設置

分館については、他の公共施設との複合や、新たに開発が予想される地域には事前に開発計画に、図書館についての計画を盛りこむ等、早期に実現するよう考慮する。

3. 分室の設置

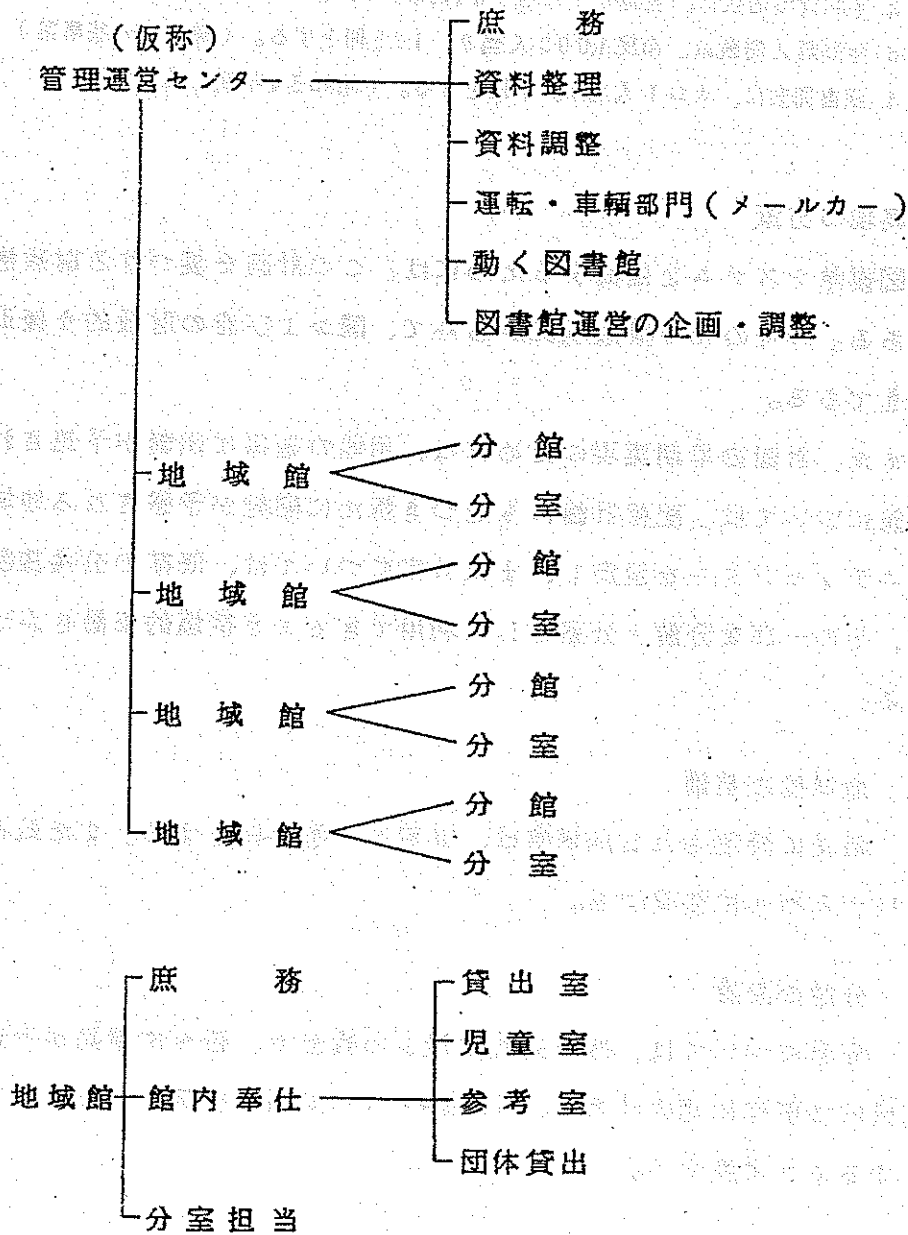
分室は、既存の公共的施設の活用を重点的に考え、民間施設の借上げ等も考慮する必要がある。

4. 留意事項

(1) 組織・機構の整備

新たに組織される図書館システムは、おおよそ次のような組織機構をもつ

ものである。



(2) 図書館間の調整機能

(仮称)管理運営センターの設置にともない、資料が各図書館に固定化するのを避け、また、資料整理の集中化による各図書館への配本、各種団体への配本など効果的に行うためにはメールカーの運行は不可欠の条件となる。

(3) 資料の充実

市民が求める役だつ資料と、新鮮で魅力ある資料を豊富にそろえるため、充分な資料費が必要である。

(4) 職員の適正配置及び研修

市民が求める資料を的確に把握し、それに応える資料を提供するため、専門職員(司書・司書補)を配置しなければならない。

また、職員の資質向上をはかるため、研修の機会を確保しなければならない。

(5) 学校図書館、その他の機関、施設との連携

図書館以外の他の機関、施設において行われる読書活動は、図書館の活動と密接に連携して、相乗効果を高めるように配慮する必要がある。

1. Introduction

2. Methodology

3. Results and Discussion

添付資料

(1)	諮 問 書	1
(2)	協議会の審議経過	2
(3)	豊中市総合計画（抜粋）	3
(4)	昭和48年～54年 豊中市立図書館統計表	3
	各館別内訳	4
(5)	各年度サービス・ポイント別利用状況	5
(6)	貸出指数変化表	5
(7)	レファレンス件数一覧表	6
(8)	動く図書館利用状況	6
(9)	動く図書館利用者集中ステーション一覧表	7
(10)	動く図書館サービス・ステーション	9
(11)	岡町図書館団体貸出一覧表	11
(12)	岡町図書館読書会一覧表	12
(13)	千里図書館読書会一覧表	13
(14)	障害者奉仕のための器材、資料一覧表	13
(15)	各都市図書館統計（人口類似都市）	14
(16)	各都市図書館統計（関東地区）	15

(1) 諮問書

豊岡図第15号
昭和54年12月21日

豊中市立図書館協議会
委員長 楠原中住 殿

豊中市立岡町図書館
館長 甲賀忠昭

豊中市立図書館長期計画と家庭・地域文庫
への助成について (諮問)

豊中市立図書館は、昨年4月千里図書館が新設され、3図書館の運営によるサービスが実施されておりますが、反面個人のボランティア的活動による家庭・地域文庫も活発であります。このような状況の中で、市民に密着した図書館サービスを確立するためには、長期的展望にたった図書館システムの完成が主要な課題となってきております。

そこで、当市の図書館施策の方針について、次の事項をご答申くださるよう諮問いたします。

記

1. 図書館システムを完成させるための長期計画について
2. 家庭・地域文庫への助成について

(2) 協議会の審議経過

昭和54年12月21日	第1回全体会	図書館長より諮問を受けた「豊中市立図書館の長期計画と家庭・地域文庫への助成について」討議、「家庭・地域文庫助成」について口頭による答申を行う。
昭和55年 8月21日	第2回全体会	新委員紹介および図書館活動の現状と長期計画について説明
9月17日	第3回全体会	長期計画の内容について、審議方法について小委員会を構成
9月25日	第1回小委員会	長期計画の全体像について
10月 8日	第4回全体会	小委員会の討議について報告、基本的な考え方について
10月18日	第2回小委員会	基本的な考え方について、歴史的経過について
10月24日	第3回小委員会	現状と問題点について
11月 5日	第4回小委員会	現状について
11月12日	第5回小委員会	問題点について
11月19日	第6回小委員会	計画の目標について
12月 5日	第7回小委員会	計画の概要について
12月15日	第8回小委員会	計画の内容・推進について
12月22日	第9回小委員会	基本的な考え方・歴史的経過・現状と問題点・計画の目標の文章化について再検討
昭和56年 1月16日	第10回小委員会	最終報告(成案)への調整
2月 6日	第5回全体会	小委員会においてまとめた答申案を審議し答申書作成

(3) 豊中市総合計画（抜粋）

豊中市総合計画 基本計画

社会教育〔施策の方向〕

図書館の整備を進める

- 市民が身近に図書を利用できるように動く図書館、図書館分室、図書室の拡充や家庭文庫、地域文庫などの助成に努める。
- 地域図書館については、既存施設との関係を考慮して北部地域に1館の新設を検討する。また、小図書館についても分室の拡充と関連させながら地域の実情に応じて設置を検討する。
- 各施設の機能分担と相互補完をはかり、図書館活動を市民と結びつけた多様なものとして発展させる。

昭和54年3月

(4) 昭和48～54年 豊中市立図書館統計表

年度	登録者数		貸出人数		貸出冊数		蔵書冊数	
		%		%		%		%
48	33,671	100	180,148	100	393,939	100	108,579	100
49	41,849	124	252,865	140	593,907	151	135,710	125
50	53,543	159	391,323	217	789,588	200	174,052	160
51	51,976	154	395,529	220	876,373	222	199,458	184
52	49,551	147	441,577	245	971,352	247	219,516	202
53	68,418	203	536,261	298	1,414,654	359	265,199	244
54	63,664	189	552,236	307	1,505,658	382	291,978	269

各 館 別 内 訳

(岡 町)

年度	登録者数	貸出人数	貸出冊数	蔵書冊数
48	33,671	180,148	393,939	108,579
49	41,849	252,865	593,907	135,710
50	44,851	325,768	628,236	151,277
51	42,696	317,269	661,711	166,962
52	40,452	369,438	756,209	180,689
53	42,678	323,879	815,066	189,468
54	36,086	328,179	825,168	198,920

(庄 内)

50	8,692	65,555	161,352	22,775
51	9,280	78,260	214,662	32,496
52	9,099	72,139	215,143	38,827
53	9,216	72,231	248,793	44,829
54	9,216	68,337	245,644	50,461

(千 里)

53	16,524	140,151	350,795	30,902
54	18,362	155,720	434,846	42,597

(5) 各年度サービス・ポイント別利用状況

登録者		年度		
		5 2	5 3	5 4
地域 館	個人	27,494人 (55.5%)	44,591人 (65.2%)	45,250人 (71.1%)
	団体	8,750 (17.7%)	5,837 (18.5%)	6,596 (10.4%)
分室		2,422 (4.9%)	2,710 (4.0%)	2,812 (4.4%)
B M		10,885 (22.0%)	15,280 (22.3%)	9,006 (14.1%)
合計 (うち児童)		49,551 (19,289) (64.5%)	68,418 (29,678) (62.7%)	63,664 (29,977) (62.4%)

貸出冊数		年度		
		5 2	5 3	5 4
地域 館	個人	616,460冊 (63.5%)	1,017,560冊 (71.9%)	1,091,787冊 (72.5%)
	団体	69,276 (7.1%)	86,332 (6.1%)	98,963 (6.6%)
分室		68,214 (7.0%)	80,024 (5.7%)	79,684 (5.3%)
B M		217,402 (22.4%)	230,738 (16.3%)	235,224 (15.6%)
合計 (うち児童)		971,352 (383,910) (56.0%)	1,414,654 (623,971) (56.8%)	1,505,658 (623,555) (53.2%)

(6) 貸出指数変化表

指数変化	年度		
	5 2	5 3	5 4
貸出密度	2.4冊	3.6冊	3.9冊
実質貸出密度	19.6冊	20.7冊	23.7冊
蔵書回転率	4.42回	5.3回	5.2回
登録率	12.2%	17.4%	16.3%

(7) レファレンス件数一覧表

年度	全館	岡町	庄内	千里
48	2,102	2,102	—	—
49	4,024	4,024	—	—
50	2,779	2,608	171	—
51	2,779	2,552	227	—
52	3,232	3,037	195	—
53	5,311	4,008	525	778
54	4,076	2,516	523	1,037

(8) 動く図書館利用状況

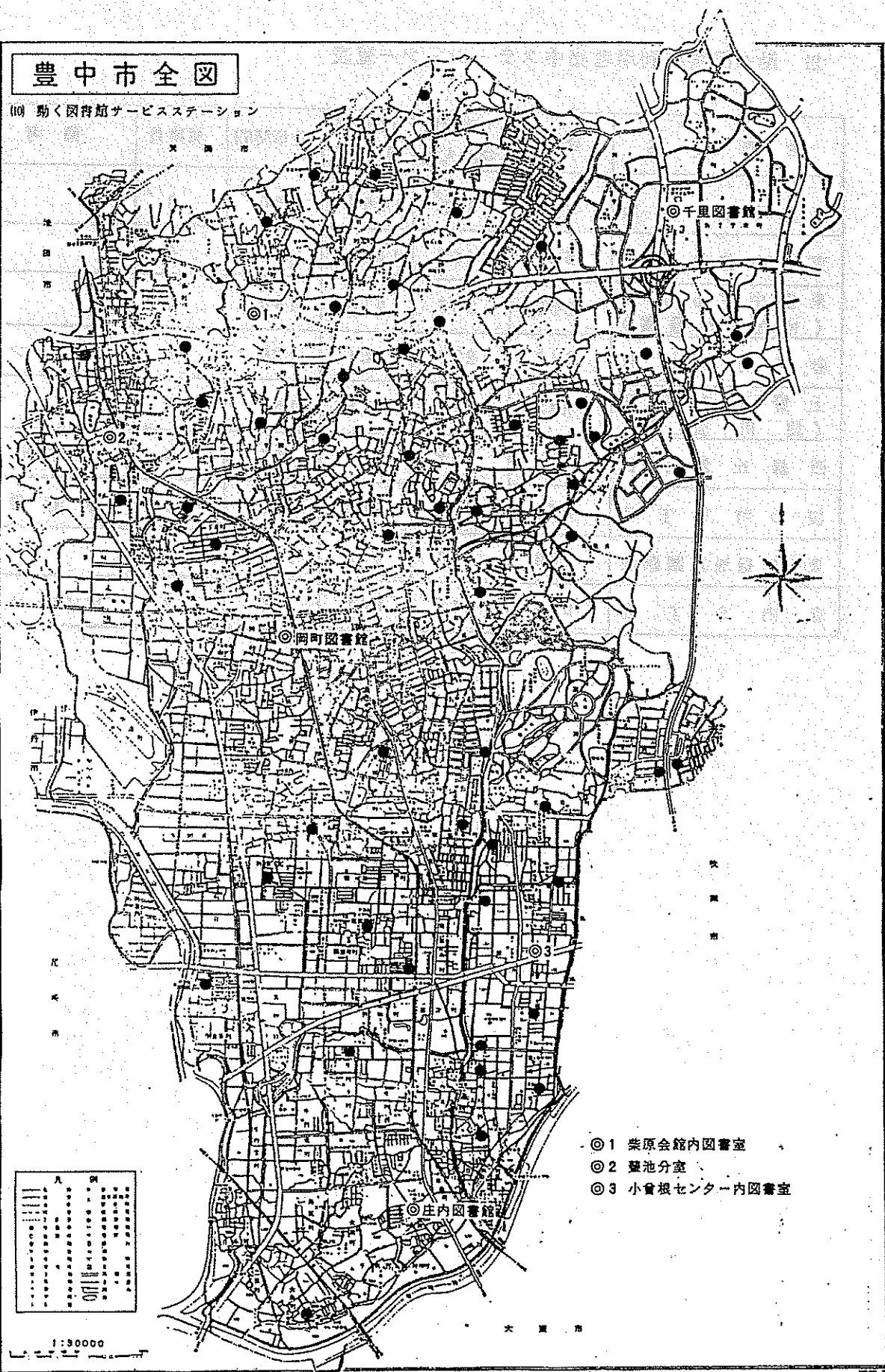
年度	貸出冊数	貸出人数	登録世帯	登録人数	蔵書冊数	ステーション数	備考
48	冊 105,013	人 41,794	グループ 956	人 4,138	冊 39,745	ステーション 113	
49	155,855	66,885	世帯 2,935	8,435	45,683	94	49.10 グループ利用法から世帯 別利用法に改める
50	175,689	75,330	2,677	8,061	52,140	67	50.7 庄内図書館閉館
51	196,819	78,870	2,741	8,513	41,470	66	51.4 貸出方式を冊数チェック 方式に改める
52	217,402	81,334	2,849	8,925	31,008	63	
53	230,738	79,944	2,823	9,038	35,145	56	53.4 千里図書館閉館
54	235,224	77,602	2,886	8,856	35,291	56	54.9 貸出冊数制限廃止

(9) 動く図書館利用者集中ステーション一覧表

駐 車 場 名	登録者	1回平均 貸出人数	1回平均 貸出冊数	駐車時間	乗務員	備 考
東 豊 中 第 1 団 地	431 ^人	335 ^人	1,059 ^冊	150 ^分	3 ^人	
東 豊 中 第 2 団 地	567	462	1,369	160	3	
東 豊 中 町 5 丁 目 (ゆたか幼稚園)	302	257	788	160	3	
春 日 町 5 丁 目	342	277	921	120	3	マンション
上 野 東 2 丁 目 (堀田公園)	353	277	915	150	3	
西 緑 丘 2 丁 目	308	233	799	125	3	中層住宅
桜 の 町 5 丁 目	274	212	705	125	3	住宅街
東 寺 内 緑 地 公 園 駅 前	306	217	665	120	3	
寺 内 2 丁 目	284	212	641	120	3	マンション

豊中市全図

(10) 動く図書館サービスステーション



- ◎1 柴原会館内図書室
- ◎2 鑿池分室
- ◎3 小曾根センター内図書室

凡 例	
——	主要道路
---	一般道路
...	河川
.....	公園
.....	緑地
.....	校舎
.....	駅舎
.....	公共施設
.....	その他

1:30000

(11) 岡町図書館団体貸出一覧表

〔文庫〕

団体名	登録人数
いお文庫	30
つくしんぼ文庫	60
そよ風文庫	344
月曜子ども文庫	150
旭丘文庫	223
たんぼぼ文庫	30
仲よし文庫	290
わかば図書	60
府営豊中桜塚自治会	30
第2そよかぜ文庫	139
ひまわり会	7
豊松園文庫	75
水谷読書グループ	10
北町子ども文庫	100
北町子ども会	175
上野北団地	100
オリーブ子ども会	100
杉の子会	70
豊中スカイハイツ図書室	70
東豊子ども読書会	20
緑会	35
子どもの本の家	100

〔会社・事務所〕

団体名	登録人数
ミクニペイント	40
第2給食センター	81

〔学校〕

団体名
茨木養護学校刀根山分校
大池小学校
泉丘小学校
原田小学校
第14中学校

〔PTA・その他〕

団体名
桜井谷小学校PTA
南丘小学校PTA
南桜塚小学校PTA
東豊中小学校PTA
西丘小学校PTA
箕輪小学校PTA
緑地小学校PTA
朝日ケータリングサービス

(12) 岡町図書館読書会一覧表

読書会名	会員数	読書会名	会員数
茜会	8	待兼グループ	6
上津島読書グループ	24	緑丘読書会	8
大池読書会	10	もゆる会	10
きさらぎぐるうぶ	12	さつき読書会	10
きりんグループ	5	喜久の会	21
北丘小学校 子どもの本を読む会	17	昂(すばる)	11
さざれ会	15	現代都市政策研究読書会	3
やまなみ読書会	7	庄内小学校P.T.A	20
あすなろ	7	千里婦人学級自主教室	25
しんふじん読書グループ	15	豊島読書クラブ	4
ともしび	10	てしま幼稚園読書クラブ	6
とよ読書会	30	満の会	5
豊中読書会	10	森読書グループ	10
豊中婦人団体協議会教養部会	40	むらくさ読書会	14
〃 青少年部会	54	野田のお母さん読書会	75
中豊島P.T.A	20	豊中市職文学サークル	23
西丘読書会	15	南丘小学校P.T.A図書委員会	13
原田読書サークル	23		
ぶどうの会	12		
ほたる読書会	15		
本町2丁目婦人会読書会	30		

(13) 千里図書館読書会一覧表

読書会名	会員数
藍 (あ い)	30
千里読書会	40
北丘小学校PTA子どもの本を読む会	10
ニュータウン文学会	10
千里万葉サークル	40
北丘小学校PTA「母と子」を読む会	14
与謝野晶子研究会	20
ストーリーテリングの会	4
たんぽぽ文庫読書会	15

(14) 障害者奉仕のための器材、資料一覧表

55年12月現在

	岡町図書館	庄内図書館	千里図書館	計
拡大読書器	1台	1台	1台	3台
点字図書	968冊	—	—	968冊
※ 声の図書	548巻	—	—	548巻
大活字本	6冊	—	—	6冊

※ 民生部福祉課より移管

(15) 各都市図書館統計(人口類似都市)

(「日本の図書館 1980」から)

	相模原市	横須賀市	岐阜市	倉敷市	金沢市	西宮市	松戸市	豊中市
人口(千人)	428	420	407	404	404	396	391	391
図書館数	1	2	3	4	2	1	11	3
移動図書館数	2	0	1	1	1	2	2	2
蔵書冊数(千冊)	214	123	171	218	260	175	297	292
貸出冊数(千冊)	979	283	645	737	368	936	1555	1506
購入冊数	42149	12633	20234	16802	20761	19424	47338	36988
登録者数	64244	17326	32687	32353	29165	32481	114303	63664
職員数	$\frac{\text{司書(司書補)}}{\text{その他}}$	$\frac{9}{9}$	$\frac{9}{13}$	$\frac{11}{8}$	$\frac{16(2)}{22}$	$\frac{7}{14}$	$\frac{15}{17}$	$\frac{47}{6}$

* 団体貸出を含む

市民1人当り 貸出冊数 人口	冊 2.29	0.67	1.58	1.82	0.91	2.36	3.98	3.85
登録率 $\frac{\text{登録者}}{\text{人口}} \times 100$	% 15.0	4.1	8.0	8.0	7.2	8.2	29.2	16.3
登録者1人当り 貸出冊数 登録者数	冊 15.2	16.3	19.7	22.8	12.6	28.8	13.6	23.7
市民1人当り 購入冊数 人口	冊 0.10	0.03	0.05	0.04	0.05	0.05	0.12	0.09
市民1人当り 蔵書冊数 人口	冊 0.50	0.29	0.42	0.54	0.64	0.44	0.76	0.75
職員1人当り 貸出冊数(千冊) 職員数	千冊 35.0	15.7	29.3	38.8	9.2	44.6	48.6	28.4

06 各都市図書館統計（関東地区）

（「日本の図書館 1980」から）

	国立市	東村山市	日野市	府中市	町田市	千葉市	東京都 北区	文京区	太田区
人口（千人）	63	117	141	185	287	732	384	195	657
図書館数	1	2	8	10	4	11	6	6	10
移動図書館数	0	2	2	1	3	2	2	0	0
蔵書冊数（千冊）	109	208	322	403	358	425	211	324	776
貸出冊数（千冊）	464	541	994	839	1800	1810	919	1021	2610
購入冊数	14596	25317	60027	33958	49437	86610	36404	47689	97327
登録者数	32531	27124	38723	49797	59407	160428	51732	55431	78567
職員数	$\frac{11}{3}$	$\frac{12}{12}$	$\frac{31}{2}$	$\frac{19}{11}$	$\frac{6}{36}$	$\frac{39(3)}{23}$	$\frac{11}{61}$	$\frac{24}{75}$	$\frac{73}{99}$

* 団体貸出を含む

市民1人当り 貸出冊数	$\frac{\text{貸出冊数}}{\text{人口}}$	冊	7.37	4.62	7.05	4.54	6.27	2.47	2.39	5.24	3.97
登録率	$\frac{\text{登録者}}{\text{人口}} \times 100$	%	51.6	23.2	27.5	26.9	20.7	21.9	13.5	28.4	12.0
登録者1人当り 貸出冊数	$\frac{\text{貸出冊数}}{\text{登録者数}}$	冊	14.3	19.9	25.7	16.8	30.3	11.3	17.8	18.4	33.2
市民1人当り 購入冊数	$\frac{\text{購入冊数}}{\text{人口}}$	冊	0.23	0.22	0.43	0.18	0.17	0.12	0.09	0.24	0.15
市民1人当り 蔵書冊数	$\frac{\text{蔵書冊数}}{\text{人口}}$	冊	1.73	1.78	2.28	2.18	1.25	0.58	0.55	1.66	1.18
職員1人当り 貸出冊数（千冊）	$\frac{\text{貸出冊数}}{\text{職員数}}$	千冊	33.1	22.5	25.5	28.0	42.9	27.8	12.8	10.3	15.2

2018年12月31日

行次	科目名称	年初余额	本年增加	本年减少	年末余额
1	流动资产				
2	货币资金				
3	应收账款				
4	预付款项				
5	其他应收款				
6	存货				
7	流动资产合计				
8	非流动资产				
9	长期股权投资				
10	固定资产				
11	无形资产				
12	非流动资产合计				
13	资产总计				
14	流动负债				
15	短期借款				
16	应付账款				
17	预收款项				
18	应付职工薪酬				
19	应交税费				
20	其他应付款				
21	流动负债合计				
22	非流动负债				
23	长期借款				
24	应付债券				
25	其他非流动负债				
26	非流动负债合计				
27	负债合计				
28	所有者权益				
29	实收资本				
30	资本公积				
31	盈余公积				
32	未分配利润				
33	所有者权益合计				
34	负债和所有者权益总计				

行次	科目名称	年初余额	本年增加	本年减少	年末余额
35	流动资产				
36	货币资金				
37	应收账款				
38	预付款项				
39	其他应收款				
40	存货				
41	流动资产合计				
42	非流动资产				
43	长期股权投资				
44	固定资产				
45	无形资产				
46	非流动资产合计				
47	资产总计				
48	流动负债				
49	短期借款				
50	应付账款				
51	预收款项				
52	应付职工薪酬				
53	应交税费				
54	其他应付款				
55	流动负债合计				
56	非流动负债				
57	长期借款				
58	应付债券				
59	其他非流动负债				
60	非流动负债合计				
61	负债合计				
62	所有者权益				
63	实收资本				
64	资本公积				
65	盈余公积				
66	未分配利润				
67	所有者权益合计				
68	负债和所有者权益总计				